

1. 件名：福島第一原子力発電所における環境線量低減対策に係る面談
2. 日時：令和4年2月21日（月）13：30～14：30
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者：
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
高松専門職、横山係長
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当3名
5. 要旨：
 - 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、福島第一原子力発電所における環境線量低減対策について、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度について
 - ✓ 降雨等の影響により一時的な変動があるものの、横ばい傾向であること。
 - 港湾口海水モニタの測定結果について
 - ✓ 2022年2月15日に発生した設備不具合により測定が出来ない状態となっており、現在、復旧作業を行っていること。
 - 原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果について
 - ✓ 放出による被ばく線量は、年間 $0.05\mu\text{Sv}$ 未満であり、年間 $30\mu\text{Sv}$ と比べ十分小さく、先月の結果と比較しても大きな変化がないこと。
 - ✓ 今年1月18日に実施された3号機RHRパージ作業でのKr-85放出による評価値は、 $2.8\times 10^{-8}\text{mSv/年}$ となり、毎月の評価値（ $5.0\times 10^{-5}\text{mSv/年}$ ）と比較して十分小さい値であったこと。
 - 原子力規制庁は上記説明内容を確認するとともに、東京電力に対し、港湾口海水モニタについて早期復旧するよう促すとともに、その対策についても今後、報告することを求めた。
6. その他
資料：
 - 環境線量低減対策スケジュール
 - タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
 - 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2022年1月）
 - 別紙 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2022年1月評価分（詳細データ）

以上